



発行所
一般社団法人秋田中央建設業協会
発行人
田中道
〒010-0951秋田市山王4丁目3番7号
TEL 018-862-7778
akenkyo@akenkyo.or.jp
秋田中央建設業協会 検索

令和元年度 安全管理講習会

令和元年度安全管理講習会が、6月27日（木）午後1時半から当協会3階大会議室において、48名の受講者を集めて開催され、次のとおり各講師による講習が行われました。

◇建設現場における安全管理のポイントについて
秋田労働基準監督署
署長 町田 良則 氏

町田署長からは、三大災害だけでなく建設業の常識に捉われないあらゆる可能性への「気づき」が必要で、そのためには、リスク対策の基本である危険を想像すること、現場に足を運ぶこと、ワークショップを何度も繰り返すことなどが重要であるとのお話をありました。



◇交通安全について
秋田中央警察署交通課
交通企画係長 登藤 大樹 氏



登藤係長からは交通事故の事例紹介があり、その後ドライブレコーダーの映像集を視聴しました。注意やルールを無視したことによる事故を防ぐために、「交通ルールを守ること」の基本に立ち返っていたくよう参加者に呼びかけました。



◇①労働災害発生状況と防止対策について
②ハーネス型墜落制止用器具の取り扱いについて
③通勤災害について
秋田労働基準監督署
安全衛生課長 田川 健志 氏

田川課長からは、高年齢の従業員が増えていることから、「見える化」による労働災害防止対策について、多様な観点からお話をありました。次にフルハーネス型墜落制止用器具の使用について、引き続き通勤災害のさまざまな事例や注意点について説明がありました。

会員の皆さんには、今回の講習会で得た成果を自社の安全衛生管理や交通災害防止に役立てていただきたいと思います。

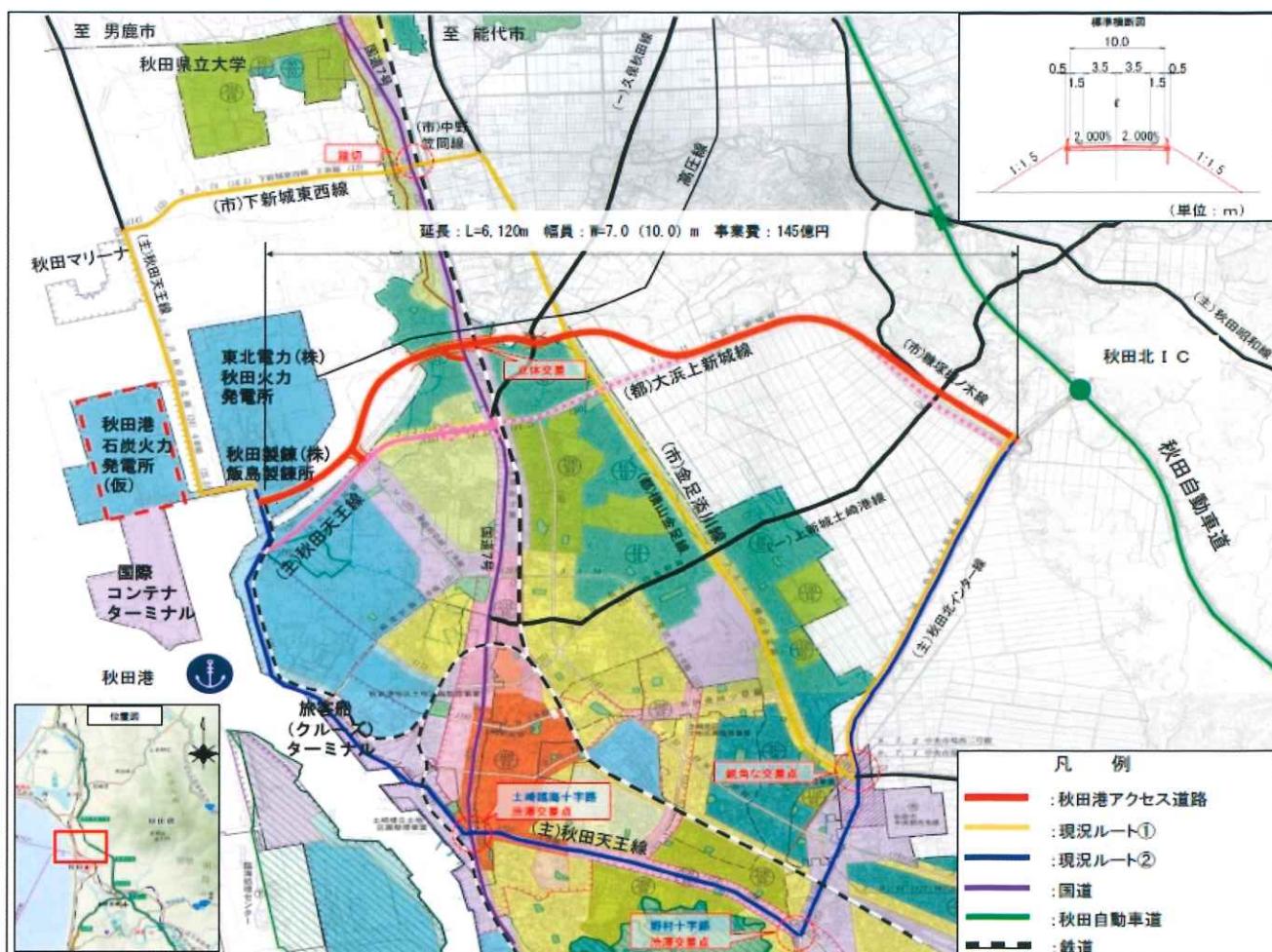
令和元年度 秋田地域振興局建設部 新規事業 秋田天王線 秋田港アクセス道路

7月号では、秋田地域振興局建設部における新規事業について報告します。

近年、秋田港は、コンテナ取扱量の増大や大型クルーズ船の寄港回数増加など、港湾を取り巻く環境が大きく変化しています。

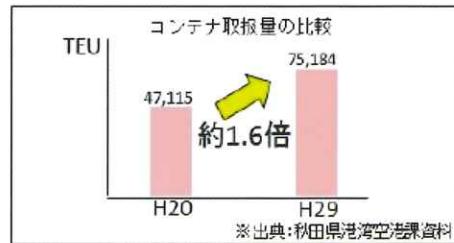
県ではこうした環境の変化に対応し、さらなる県内産業の発展や観光振興を図るために、今年度から「秋田港アクセス道路」を新規事業化しました。

アクセス道路完成後は、秋田港と秋田北IC間を約10分で接続することになります。（現況ルートの約半分）



コンテナ取扱量の増加

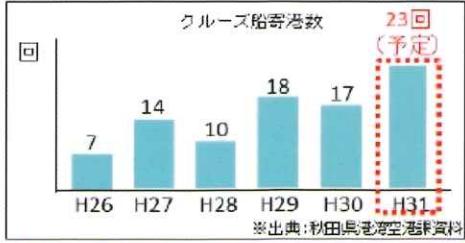
○コンテナ取扱量が10年間で1.6倍に



物流効率化により更なる増加に期待

クルーズ船寄港数の増加

○平成31年の寄港数は過去最多の23回を予定



観光地へのアクセス強化により
更なる増加に期待

理事会・委員会

◎経営・総務委員会

6月20日(木)12時から委員会を開催し、次の事項について審議した結果、委員会として了とし、理事会に付議することとしました。

議題

1. 会員の継承について

(平野委員長、珍田副委員長、小南・佐々木・千葉・福岡・岡部・中田委員)

◎理事会

6月21日(金)午前11時から第3回理事会を開催し、次の事項について審議した結果、い

ずれも原案どおり承認されました。

議題

1. 各委員会の構成について
2. 経営・総務委員会の審議結果について

◇会員権継承承認者

(株)清水組 代表取締役 清水 隆成 氏
 藤田建設(株) 代表取締役 安田 張幸 氏
 (株)加賀屋組 代表取締役 加賀屋 篤 氏

(加藤会長、齊藤・長谷川副会長、三浦・沢木・平野・菅原(廣)・渡辺・小南・加藤(正)・石塚・伊藤(仁)・珍田・菅原(孝)理事、加藤(政)・伊藤(久)監事)

委員会

◎経営・総務委員会

委員長	平野 久貴
副委員長	加藤 正己
副委員長	珍田 伸一
委 員	三浦 稔
委 員	小南 淳
委 員	加藤 俊介
委 員	佐々木 徹
委 員	嶋宮 信雄
委 員	千葉 利則
委 員	福岡 健
委 員	岡部 秋男
委 員	中田 潤
委 員	二木 寿
委 員	天野 貴明
委 員	安田 張幸

◎工事・技術委員会

委員長	菅原 廣悦
副委員長	沢木 則明
副委員長	石塚 英公
委 員	佐々木 創太
委 員	伊藤 仁
委 員	菅原 孝次郎
委 員	加賀谷 亨
委 員	山平 重明
委 員	板橋 栄
委 員	青池 宏志
委 員	小林 敬悦
委 員	足利 健
委 員	石井 快介
委 員	古結 健史
委 員	清水 隆成
委 員	加賀屋 篤

◎雇用・安全委員会

委員長	武田 鋭彦
副委員長	渡辺 憲介
副委員長	板橋 広光
委 員	伊藤 満
委 員	加藤 政之
委 員	伊藤 久嗣
委 員	工藤 源聖
委 員	佐藤 均
委 員	村山 拓
委 員	桧山 幹雄
委 員	高橋 章子
委 員	工藤 堅裕
委 員	渡邊 佳樹
委 員	中村 章宏
委 員	橋本 充



STOP ! 熱中症 クールワークキャンペーン

— 熱中症予防対策の徹底を図る —

令和元年5月～9月

職場における熱中症で亡くなる人は、毎年全国で10人以上にのぼり、4日以上仕事を休む人は、400人を超えてます。厚生労働省では、労働災害防止団体などと連携して、「STOP ! 熱中症 クールワークキャンペーン」を展開し、職場での熱中症予防のための重点的な取組を進めています。各事業場でも、事業者、労働者の皆さまご協力のもと、熱中症予防に取り組みましょう！

●実施期間：令和元年5月1日から9月30日まで（準備期間平成31年4月、重点取組期間令和元年7月）



事業場では、期間ごとの実施事項に重点的に取り組んでください。
確実に実施したかを確認し、□にチェックを入れましょう！

準備期間（4月1日～4月30日）

<input type="checkbox"/> 暑さ指數（WBGT値）の把握の準備	JIS規格「JIS B 7922」に適合した暑さ指數計を準備しましょう。	
<input type="checkbox"/> 作業計画の策定など	暑さ指數に応じて、作業の中止、休憩時間の確保などができるよう余裕を持った作業計画をたてましょう。	
<input type="checkbox"/> 設備対策・休憩場所の確保の検討	簡易な屋根の設置、通風または冷房設備やミストシャワーなどの設置により、暑さ指數を下げる方法を検討しましょう。また、作業場所の近くに冷房を備えた休憩場所や日陰などの涼しい休憩場所を確保しましょう。	
<input type="checkbox"/> 服装などの検討	通気性のいい作業着を準備しておきましょう。送風機能のある作業服やクールベストなども検討しましょう。	
<input type="checkbox"/> 教育研修の実施	熱中症の防止対策について、教育を行いましょう。	
<input type="checkbox"/> 熱中症予防管理者の選任と責任体制の確立	熱中症に詳しい人の中から管理者を選任し、事業場としての管理体制を整えましょう。	
<input type="checkbox"/> 緊急事態の措置の確認	体調不良時に搬送する病院や緊急時の対応について確認を行い、周知しましょう。	

【主唱】厚生労働省、中央労働災害防止協会、建設業労働災害防止協会、陸上貨物運送事業労働災害防止協会、港湾貨物運送事業労働災害防止協会、林業・木材製造業労働災害防止協会、一般社団法人日本労働安全衛生コンサルタント会、一般社団法人全国警備業協会 【協賛】公益社団法人日本保安用品協会、一般社団法人日本電気計測器工業会 【後援】関係省庁（農林水産省、国土交通省、環境省）



厚生労働省・都道府県労働局・労働基準監督署

(R元.5)